

氏名（本籍）	サクマ 佐久間 あすか（茨城県）		
学位の種類	博士（美術）		
学位記番号	博美第103号		
学位授与年月日	平成14年3月25日		
学位論文等題目	作品「集というかたち」を主題とした一連の作品 論文「集」というかたち 日常の時間・痕跡・集積		
論文等審査委員			
（主査）	東京芸術大学	教授（美術学部）	池田政治
（論文第1副査）	”	助教授（ ” ）	井村彰
（作品第1副査）	”	教授（ ” ）	望月積
（副査）	”	”（ ” ）	伊藤隆道
（ ” ）	”	助教授（ ” ）	尾登誠一

（論文内容の要旨）

芸術の主題は生活の中に存在する。そして人は日常的に生産し表現し続ける。自分が生きていく過程には様々な経験をする。その変化していく時間や空間の中で自然と生産されるものが自ずと芸術作品に値するのだと思う。またそれらの芸術は、人間の生がそうであるように現代社会に影響され影響しあい刻々と変化を遂げている。この人間社会のイズム（主義）や形式の多様な変化を止めることは不可能だ。しかしながらはっきり言えることは、現代の芸術は、現代社会の中で生まれた生産物だということだ。そうだとすると、これらの美術とは社会、政治、経済、思想、生活などを赤裸々に映し出す物体ということになる。いわば美術も時代の影響の渦を泳ぐ魚のようなものではないだろうか。そんな魚の生態を観察すると現代社会の今が見えてくるはずだ。私達は過去から現在へ、そして未来へ止めることの出来ない生活空間の下で存在してきた。この空間から何ひとつ影響されずにいる者はいない。このような生活という空間とそこで過ごした時間の蓄積がひとりの人間をかたち創る。

作品とは日常生活の影響が直接反映されてくる物体だと思う。そして芸術とはそのような極身近な空間の中から生まれてくるものなので誰にとっても遠い存在でも難しいものでもないはずである。人が生きていく過程でそれは生まれてくるもので、無理やり表現するものではない。生活の中で自然に生まれてきて、また制作も自然にまかせてつくるものだ。私の作品もそういった身近な生活という「時間」「空間」「素材」の蓄積を常にテーマにして制作している。日常生活において、自分が毎日使用しているものを蓄積して出来たかたち『集』こそが私が生きた証でそしてそれが私の作品なのだ。

『集』とは自己作品においての共通の主題である。それは単なる素材の集合体だけではなく、自己の存在する「時間」や「空間」の集積でもある。またある一点を指す過去の集積でも、未来の仮定的な集積でもなく、過去から現世への継続的集積であると共に、自己が生きた生活空間の

集積でもある。『集』の根本的な柱はこれらの3つの集積から成り立っている。この3つがひとつ欠けても自己は存在しない。これがひとつになった時、自己の作品が確立するものである。と考える。

本論文は自己制作『集』を中心にその背景としての芸術における日常性を考察しつつ論じたものである。

## 内容構成

第1章「『集』というかたち」では、「時間」「空間」「素材」の集合体である『集』の位置付けとそれを構成する3つの要素の概要を述べ、自己作品の根本ともなる思想（コンセプト）と形の接点を論じた。

第2章「制作記録」では自己作品の紹介を主に『集』という作品を具体的に紹介した。作品概要として述べると、私は、常々芸術とは特定する人の物であったり難解きわまりないものであってはならないと思っている。人間の存在と共にそれは生まれ人間と共に育っていくものだと思う。表現するということは、強いて行う技術の習得でも、また生活のためにつくりあげるものでもない。生きていく中で自然に生まれてくるものなのである。私の作品はそういった極身近な生活という「時間」や「空間」の蓄積を常にテーマにして制作している。使用する素材も身近なものを使っている。特製の筆も限定発売の絵の具も必要ない。誰にでも手に入るものでよい。それらの蓄積は、私の生活空間や時間の塊であると共に私の分身でもある。この章で紹介する作品もそれがテーマである。

紹介作品では「情報の渦」「夏の日々」「練習1」「練習2」「生活」「Tea Time」「1日1歩」の7点について論じ、これらの作品は水の流れを抽象表現することで、時間の流れや、経験の蓄積を表現した。

第3章「コンセプチュアル・アートの難解さ」では、できあがった作品よりも、作品以上の思想性に重点を置きがちなコンセプチュアル・アートに対して作品とコンセプトのバランスの必要性について述べ、自己作品との関係について論じた。

第4章「思考と形態の融合」では、結びとして、自己作品と思考との関係を記述し今後の自己作品の展開と方向性を論じた。

## 目 次

論題要旨	3
内容構成	5
第 1 章 『集』というかたち	
『集』	6
「時間」	8
「空間」	
生活空間	10
真実と空間	11
「素材」	
日常廃棄物	16
素材選択の重要性	20
コンセプトの意味	22
第 2 章 制作記録	
制作の背景	
流れ	26
分身	27
渦	29
素材の強さと写実	29
作品 1 「情報の渦」	34
作品 2 「夏の日々」	37
作品 3 「習字」	41
作品 4 「漢字練習」	44
作品 5 「生活」	47
作品 6 「Tea Time」	49
作品 7 「1日1歩」	51
第 3 章 コンセプチュアル・アートの難解さ	
美術における専門性	54
思想的価値と物質的価値	56
第 4 章 かたちと思考の融合	
自己作品の展望と方向性	62
（作品資料）	66